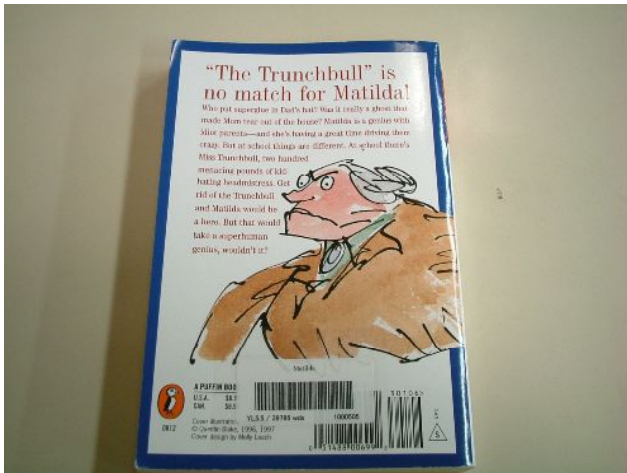


資料9 「多読プログラム」図書管理方法



本校では、700冊程度の多読用図書を使用して、多読プログラムを運営している。全ての本には、バーコードを貼付し、コンピューターで管理している。

なお、多読用図書を選定する際には、『英語多読完全ブックガイド』及び『英語多読完全ブックガイド [改訂第2版]』(出版社：コスモピア。2,730円)を参考にした。また、インターネット上では、SSS英語多読研究会のホームページが最も参考になる。

SSS英語多読研究会

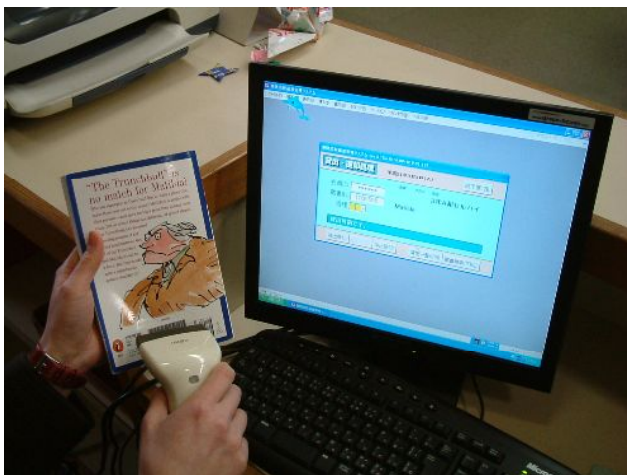
<http://www.seg.co.jp/sss/index.html>



バーコードには、(1)タイトル、(2)読みやすさレベル (YLはYomiyasusa Levelの略で、数が多いほど難易度が高い)、(3)使用語数、(4)管理番号の4つの情報が記載されている。

入力の手間を省くため、(4)の管理番号を除いては、生徒が記録用紙に記入する際に必要になる最低限の情報にとどめた。

また、バーコードを貼る位置は、作業効率の向上のため、背表紙の下から1.5cmの中央ということで統一した。



生徒に本を貸し出す際には、本校の図書室で使用している図書管理システムを使って、貸し出したクラスや学年をコンピューターに登録した。

このシステムを使用することで、返却のチェックも容易になり、図書管理の煩雑さを大幅に軽減することができた。

なお、多読プログラムの図書は英語科が管轄しているため、学校図書館で使用しているものとは異なるデータベースを作成して使用している。

しかしながら、将来、データベースを統合して、一括管理してもよいように、管理番号は1000001番から割り当てている(図書室の蔵書が100万冊を超えることはない想定のため)。



コンピューターで貸し出しの処理をした本は、この写真のようなケースに入れて各クラスに持って行き、生徒が自由に読みたい本を選べるような仕組みにした。

参考までに、写真のケースは「アイリスオーヤマ フタ付折りたたみコンテナ 26L」である。

仕様

組み立て時：外寸／幅472×奥行309×高さ249mm、内寸／幅424×奥行284×高さ222mm●折りたたみ時：幅472×奥行309×高さ64mm●耐荷重：約20kg（底面）



クラスごとではなく、学年ごとに貸し出しを行った際には、この写真のような移動式の本棚を使用した。

設置場所は廊下で、生徒が自由に閲覧できるようにした。

ただし、行方不明になった本もあるので、貸出方法については検討中である。